



那覇市文化芸術基本計画



令和2年度

那覇市文化振興課



目 次

第1章 計画策定の背景と位置づけ

1 那覇市の文化的背景	2
2 計画策定の背景	3
3 文化芸術施策に取り組む姿勢	5
4 計画の目的と位置づけ	6

第2章 那覇市における文化芸術の現状と課題

1 人口等の概要	8
2 文化芸術に対する市民意向	11
3 那覇市のイメージと魅力	14
4 文化活動状況	15
5 文化資源	20
6 那覇市の文化芸術の課題	24

第3章 計画の将来像及び基本方針

1 将来像	30
2 基本方針	31
3 計画の体系	32

第4章 基本的施策と主な取組

1 市民主体の文化芸術の振興	34
2 多様な文化芸術の継承と創造	38
3 文化芸術を生かしたまちづくり	43
4 多様な文化交流による NAHA の魅力発信	47

第5章 計画推進にあたって

1 市政の横断的な文化芸術施策の展開	52
2 文化芸術に関わる人材や専門機関との連携	54
3 各種団体との交流による活動の創出	55
4 計画の進捗管理及び評価の手法	56

資料編

文化芸術を通して 多様性に寛容な社会の実現を

長い歴史の中で芽吹き、育まれてきた文化芸術は、私たちの生活に深い関わりを持って息づいています。例えば私の母は、朝起きると「ウチャトー（御茶禱）」をし、家族の健康と幸せを願っています。私も母に倣い、市長室で、その日はじめてのお茶をいただきながら、家族と市民の皆さまの健康と幸せを願っています。



また、私が着用しているかりゆしウェアや漆の名札、まちの景観を彩る街路樹、疲れた時の滋養食としていただくヤギ汁など、これらすべてが沖縄（琉球）の文化や芸術に繋がっています。普段の生活に溶け込んでいる文化芸術は、私たちのウヤファーフジ（先祖）が、海外から伝わってきた慣習や技術を受け入れつつ、沖縄の風土に合った独自性を創造し、発展させてきたものです。

このような先人が育んだ文化芸術は、市民の誇りと精神的な支えとなって、戦争復興期、そして近代へのまちづくりを後押ししながら、今日まで継承されています。

本市では、あらゆる分野と関わりのある文化芸術が、様々な行政施策と連携することによって、だれもが文化芸術に親しみ、そして創造的な活動によって対話が進み、多様な人との交流が深まることを期待しています。

75年前の壮絶な沖縄戦で多くの貴重な文化財が失われ、人々も収容所生活を余儀なくされた中であっても琉球音楽の種火は失われず、カンカラ三線が生まれました。また現在でも、新型コロナウイルス感染症の影響によって、危機が生じています。それでも市民の文化芸術活動や創造活動を止めることなく、思考を凝らした試みが続けられています。それは文化芸術が私たちの生活に欠かせない、人々の心の拠り所であり、コロナ禍の状況にあって、なおさら必要不可欠なものだとあらためて強く思います。

本市は、文化芸術の力を最大限に活かし、まちに活力を与え、多様性に寛容な社会を実現することで、市民及び那覇市に集う全ての人が心を豊かに過ごせるまちづくりを進めるため、第3期目となる「那覇市文化芸術基本計画」を策定しました。文化芸術の振興にとどまらず、様々な分野と連携した施策を展開していくことを強く決意し、文化芸術活動が常に展開し、那覇のまちが刺激的で魅力あるまちとなるよう全力を尽くします。

最後に、本計画策定に当たり、ご尽力なされた那覇市文化行政審議会委員の皆様をはじめ、貴重なご意見をお寄せいただきました市民の皆様に心から御礼申し上げます。

令和2年9月

那覇市長 城間 幹子

